

Green Note

第26号

令和2年5月
発行

島根県農業法人協会だより

発行／島根県農業法人協会〔事務局：（一社）島根県農業会議内〕

〒690-0876 島根県松江市黒田町432番地1 TEL(0852)22-4471 FAX(0852)27-2235 E-mail:webmaster@shimane-21.gr.jp

Activity Report

令和元年
11/12
tue
松江市

中国四国農政局長との 意見交換会



令和元年11月12日(火)、松江市の『ホテル白鳥』にて、中国四国農政局長と島根県農業法人協会の意見交換会をおこないました。中国四国農政局からは大浦久宜中国四国農政局長他6名が、島根県農業法人協会からは福田会長と会員8名がそれぞれ参加し、活発に意見交換をしました。

まず、中国四国農政局から“『人・農地プラン』の実質化”等についての説明がおこなわれ、次に当会会員が各々抱えている問題を述べ、中国四国農政局から回答をいただきました。



(有)コスモ21〔水稻〕
「水稻は費用がかかる割に国からの補助をあまりしていただけない。今後も増加する水稻をやめる人の田んぼを法人が受け継いでいくためにも、今ある既存の法人への補助事業をもう少し考えていただきたい」



(有)森脇鶏農場〔養鶏〕
「私が養鶏業をおこなう中で『人・農地プラン』などのような、経営者の背中を押してもらえような情報はほとんど入ってこない。もっと情報をいただくと、我々経営者は、事業を将来も続けられると思えるのだが」



(有)ちくさん緑化〔肉用牛〕
「和牛肉の販売が低迷する中で、日米貿易協定により段階的に輸入牛肉の関税が下がると、さらに和牛肉の立場が弱くなる。日米貿易協定の今後の影響や対策を、現段階でどう考えておられるのか教えてください」

令和元年
12/18
wed
松江市

島根県農林水産部長との 意見交換会



令和元年12月18日(水)、松江市の『ホテル白鳥』にて、島根県農林水産部長と島根県農業法人協会の意見交換会をおこなしました。コーディネーターを大阪経済大学教授 山本公平氏にお願いをしました。島根県農林水産部からは鈴木部長ほか15名、島根県農業法人協会からは福田会長ほか13名が参加しました。

当会会員から事前に提出した意見に対する回答を島根県農林水産部からいただき、それを踏まえてコーディネーターの山本教授が具体的なアドバイスをされました。



総会

令和元年6月17日(月)、出雲市のニューウェルシティ出雲にて、『令和元年度 島根県農業法人協会 定期総会』および『研修会』を開催しました。



島根県農業法人協会 福田会長の挨拶

「農業政策は昔から“猫の目”に例えられます。10年前は農業の6次産業化、つい最近では輸出、今は働き方改革・スマート農業というように、重要視するものが刻々と変化しています。島根県にいとなかなかその変化が掴めないの

で、その時々々の状況を会員の皆さまに伝えていくのが私の役目と感じています。会員の皆さまも全国の会や県での会に積極的にご参加いただき、ご自分にとってプラスになるものを見つけていただきたいと思います。今年度も当会が、島根県の農業に、皆様の会社経営に、役立つ会にしていきたいと思います」



研修会 講師:佐川友彦氏(ファームサイドワークス代表)

農家の業務改革の好例として注目を集めている『阿部梨園』。東大出身で、米デュポンの日本法人に勤務経験のある佐川氏が、小さな阿部梨園に入社して自らが改革したことなどを、具体的な方法や数字などの例を挙げ、わかりやすく紹介されました。



熊本県農業法人協会 青年部視察

in熊本

日時:令和2年 2/25・26 場所:熊本県熊本市、益城町、阿蘇市
視察研修:青年部から3名が参加しました。

①サツマイモの栽培から加工まで一貫して自社でおこなう『有限会社 コウヤマ』を視察。『有限会社 コウヤマ』は、熊本名物“いきなり団子”などを製造販売するほか、紫芋パウダーなどの輸出も拡大中。

②米の受注生産をおこなう『有限会社 内田農場』を視察。『有限会社 内田農場』は、“うまい米”でなく“日本一使い手から欲しがられる米”を追求している。酒米も生産し自社ブランドの日本酒もある。



『有限会社 内田農場』を視察↑
(熊本県阿蘇市)

県立農林大学校との交流会

日時:令和2年 1/17 場所:島根県立農林大学校(大田市)

当会では毎年、島根県立農林大学校との交流をおこなっています。令和元年度も島根県農業法人協会と大学校職員、農林大学校の学生の皆さんとの意見交換をおこないました。

大学校職員との意見交換会では、大学校から「学生には校外の研修が必要と感じているので、農業法人の現場での指導をお願いしたい」などのご要望をいただき、当会会員からは「パソコンが使えないとこれからはやっていけない。AI、ITをしっかりと理解し、使えるようにし



てもらいたい」などの要望が出ていました。

学生との意見交換会では、29名の学生と9名の当会会員が、車座になって自己紹介や意見交換をおこないました。

令和元年度 事業報告

[平成31年4月～令和2年3月]

開催日	事業内容	開催場所
令和元年 5月24日	農業法人協会 監査会	島根県農業会議(松江市)
6月4日	第1回 役員会:事業計画の検討	島根県農業会議(松江市)
6月17日	青年部 監査会 青年部 令和元年度定期総会	ニューウェルシティ出雲(出雲市)
	法人協会 令和元年度定期総会 研修会[阿部梨園の新しい農業経営～農家の小さい経営改善と農業経営の未来]	ニューウェルシティ出雲(出雲市)
9月18・19日	中国四国ブロック農業法人協会交流研修会	かがわ国際会議場(香川県高松市)
10月4日	法人協会 第2回 役員会:今後の事業について	JAしまね平田中央支店(出雲市)
11月12日	中国四国農政局長と法人協会会員との意見交換会 :農地の利用集積と担い手の育成について意見交換	ホテル白鳥(松江市)
11月19日	青年部 全体会:事業計画について	武田旅館(大田市)
12月18日	島根県農林水産部長との意見交換会 :コーディネーター 大阪経済大学教授 山本公平氏	ホテル白鳥(松江市)
令和2年 1月16日	島根県立農林大学校との交流事業 :法人協会と農林大学校職員・学生との意見交換 :法人協会のPR・学生の就農支援	島根県立農林大学校(大田市)
1月24日	第16回中国四国ブロック農業法人組織会長・事務局合同会議	サン・ピーチOKAYAMA(岡山県岡山市)
2月25日・26日	青年部:熊本県農業法人協会 青年部視察	熊本県熊本市・益城町・阿蘇市

お茶の新しい価値を提案しています。

今回は、浜田市でお茶の生産・加工・販売を手掛ける『株式会社 扇原茶園』の佐々木 貴裕 社長にお話を伺いました。

扇原茶園の7haの茶園は、標高140mの高台にありながら日本海にも面している、全国的にみてもめずらしい環境にあります。茶園では「元気な土づくりからはじめる美味しいお茶づくり」をテーマに、年間約30tの茶葉を減化学肥料、減農薬で生産。その茶葉を自社工場緑番茶、ほうじ茶、白折をはじめとする茶製品に加工し、インターネットや地元の店、道の駅などで販売されています。また、大手茶製品メーカーの契約栽培もおこなっています。

扇原茶園、三代の歴史

「扇原茶園の前身は、地区で結成した茶葉生産組合です。茶葉生産組合は1948年に、浜田市の奨励もあって戦後に急増した茶葉生産農家が集まり立ち上げましたが、組合は作ったものの加工施設や販路が十分でないことから収益につながらず、やがて自然消滅しました。1956年にも再び、地区の茶葉生産農家が集まって組合を作りましたが、この時も生産量が伸びなかったりなどで経営が行き詰まり、1963年に解散しました。

そんな状況の中、1965年に私の祖父が3度目の挑戦として、単独で茶葉生産に乗り出しました。祖父は『睡眠時間は人の半分で充分』という気概で山林を開墾し茶畑を作り、茶葉生産がようやく軌道に乗った1980年に『農事組合法人扇原茶園』という法人組織にしました。父は高校を卒業するとすぐに家業を継ぎ、2年後には先進地視察を通して新しい製茶工場の必要性を感じ、1976年に製茶工場を新設しました。父が家業を継いでから、祖父は経営に一切口出しをせず好きにさせてくれたと、後に父が話してくれました。

製茶工場を新設してから県内での販売は順調に伸びていましたが、『島根茶』には『静岡茶』『宇治茶』『八女茶』といった主要生産地のようなブランド力がないことから県外での販売が伸びず、やがて県内での販売も県外茶に押されるようになってきました。



『石州浜田の緑番茶』扇原茶園の番茶は茶色ではなく緑です。

販売量が伸び悩んでいた1998年のある日、父の知り合いである作家の先生が大手茶製品メーカーである『伊藤園』の取材を受けた折に、『島根に茶農家があって、とても苦労している』という話をしてくださったことがきっかけで、伊藤園の契約農家となることができ、経営が安定するようになりました。また、『うちのお茶が緑茶飲料の一部になって全国で販売されるのだから、さらに品質をあげていこう』という責任感が生まれ、肥料や土づくりを見直すなど、更なる努力を重ねるようになりました。



現在は私が3代目社長として、7名の社員と共に茶生産に取り組んでいます。エコファーマーにも認定されており、減化学肥料・減農薬で茶葉を栽培しています」



代表取締役社長 佐々木 貴裕氏

株式会社 扇原茶園
島根県浜田市

<http://www.senbarachaen.jp>

農業を通じて社会づくりに貢献

「弊社ではお茶を生産・加工する傍ら、1970年頃から体験交流事業をおこなっています。この事業は『農の理解者を育む、生きる力を育む』という目的でスタートし、主に茶摘み体験や茶葉を使ったお料理教室などをおこなっています。毎年春に開催している『春のお茶を楽しむ会』には県内外からの観光客や家族連れがお越しになり、春の陽気を感じながらお茶摘みや茶席を楽しめます。

また、1994年に敷地内に移設した元小学校講堂を改装し交流館として活用を始め、小学生の夏休み長期宿泊体験『はまだ自然冒険村』など、いろいろな体験を通して人とのつながりを感じていただくイベントをおこなっています。

さらに、2008年からは受刑者の社会復帰促進のための郊外農作業を受託し、受刑者に茶園での作業指導をおこなっています。この活動が受刑者の更生につながり、社会復帰の一助になればと思います」



早乙女姿での茶摘み体験



地元の小学生の体験学習。蒸した茶葉をしっかりと手もみ。良いお茶ができました。

これからの夢

「今後は、地元企業などと協力し地域を盛り上げたいと考えています。地元の地ビール会社と協力して“お茶ビール”を考えたり、瓦屋さんと協力して茶菓子に乗せる瓦の皿を作ったりなど、まだ形にはなっていませんが、お茶の新しい価値を生み出す方法をいろいろと模索しています。また、新しい価値を生み出す試みの1つとして、3年前に『カフェ ティードロップス』を茶畑の中にオープンしました。ここでは茶畑を眺めながら煎茶ラテ・ほうじ茶ラテ、煎茶ホットケーキなどお茶を使ったスイーツ、ランチ（要予約）をゆっくりお召上がりいただけます。お茶は茶葉の種類だけでなく栽培地域、摘み採り時期、作る人、淹れ方で味が変わります。いろいろなことを通してお茶の美味しさや、お茶を飲むことの楽しさを伝えていけたらと思っています」



お茶ピザ、チキンの煎茶クリームソース、煎茶ドレッシングのサラダなど、お茶を使った料理体験を開催中。



@Tea Drops

NEWS

岩田農園が仁多米で卒業生を応援！！



岩田農園 岩田孝史代表が、各校代表の生徒へ贈呈（奥出雲町役場仁多庁舎にて）
岩田農園HP <https://iwatanouen.jp>

奥出雲町で仁多米を生産・販売する岩田農園は、2020年1月、“奥出雲の卒業生応援プロジェクト”として、奥出雲町の中学・高校の3年生に『絶対合格すべる米』を贈りました。

『絶対合格すべる米』は、「仁多米で若い人たちを応援したい！」「若い人に地元企業へ興味をもってもらい、地元に残ってもらいたい！」「奥出雲町と一緒に元気になっていきたい！」との願いを込め、岩田農園が自社生産の仁多米を商品化したものです。

岩田代表は「奥出雲町は山間の小さな町で人口減少などの課題を抱えています。若い人が地元の魅力を知って見方が変わることで地元で暮らそうと思うのではないかと考え、仁多米の魅力を発信する商品を弊社スタッフで考えました。試験の日の朝に『絶対合格すべる米』を食べ試験に挑んだ、などの声をいただき、嬉しく思いました」と話していました。

絶対合格すべる米（仁多米/白米）300g 540円（税込）



明るい農村の玄米麺が人気！

『明るい農村』の玄米麺はモチモチ、シコシコ、とても弾力がある麺で冷麺、拉麺、焼きそば、パスタ、鍋のしめなど様々な用途があります。味はお米、風味は玄米という感じで、製麺時に塩分、油、小麦を使用しないグルテンフリー。小麦アレルギーのある方、健康思考の方にオススメの麺です。水稲を手掛ける『明るい農村』が玄米麺を作ることになったきっかけは、収穫した米粒の大きさが不揃いだったこと。農薬・化学肥料不使用で苦労して稲を育てても、米粒の大きさがまちまちで1等米比率が低かったことから、米を加工して作る“玄米麺”を思いつきました。

玄米麺の販売で苦労した点は、ニッチ過ぎる商品で高単価なため需要がそもそも低く、農作業と並行しての営業が必要であったこと、また、グルテンフリーのため成分分析を依頼されることがあり、思った以上のコストがかかったことなどです。

現在、海外への輸出を考えており、海外向けパッケージを製作中です。



食べチョクで購入できます。https://www.tabechoku.com

Caféごはん Readの フレンチトースト

旭養鶏舎(卵)+中山農場&シックスプロデュース(牛乳)使用



大田市にある『Caféごはん Read』は、地元食材にこだわり手間ひまかけて作るカフェごはんの店。2020年2月に登場した新メニュー:フ



レンチトーストは、旭養鶏産の卵と、中山農場が搾りシックスプロデュースが加工した牛乳を使用し、食パンと蜂蜜も地元産と、地元食材だけを使った、究極のフレンチトーストです。(要予約)

Caféごはん Read 島根県大田市大田町大田/125-2 武部ビル1階

薪窯パンalluméの ファーブルトン

森脇鶏農場(卵)+木次乳業(牛乳)使用



雲南市木次町にある『薪窯パンallumé』は、築90年の古民家を改装したパンと焼き菓子の店。定番スイーツの石窯で焼いた“ファーブルト



ン”は、プリンのような食感のフランスの伝統菓子。森脇鶏農場のネッカ卵と木次乳業の山地酪農牛乳を生地に使用し、春夏はブルー、秋冬はりんごと、季節によって混ぜ込む果物が変わります。

薪窯パンallumé 島根県雲南市木次町寺領1036-1

Membership List

法人名	正会員	青年部	住所および業種
(有) 福田ファーム	会長	○	出雲市野石谷町 養鶏 加工
(株) いづも農縁	副会長		出雲市稲岡町 野菜 加工
(有) コスモ21	副会長	○	仁多郡奥出雲町 水稲 養鶏
(株) 松永牧場	理事		益田市種村町 肉用牛
(有) 旭養鶏舎	理事	監事	大田市波根町 養鶏 加工
(株) ファーム木精	理事	○	飯石郡飯南町 水稲 野菜 加工
(有) 森脇鶏農場	理事		雲南市大東町 養鶏
(株) 勝部農産	理事		出雲市斐川町 水稲 小麦 大豆
(株) オーサン	理事		邑智郡川本町 加工
カンドーファーム(株)	理事	部長	松江市古曾志町 水稲
(有) 櫻井エンタープライズ	理事	副部長	益田市美都町 養鶏 加工
(有) やさか共同農場	理事	副部長	浜田市弥栄町 水稲 加工
(有) 木次ファーム	監事	○	雲南市木次町 養鶏
(有) 後長牧場	監事		飯石郡飯南町 酪農
木次乳業(有)	○	監事	雲南市木次町 酪農 加工
(有) 中山農場	○	○	大田市川合町 酪農
(有) 三和農産	○	○	出雲市船津町 水稲 加工
(有) 桜江町桑茶生産組合	○	○	江津市桜江町 桑 加工
(有) 大田原農場	○		大田市水上町 酪農

法人名	正会員	青年部	住所および業種
(農) 河本牧場	○		益田市匹見町 肉用牛
(農) 京村牧場	○		鹿足郡津和野町 肉用牛
(有) ちくさん緑化	○		出雲市渡橋町 肉用牛
ティーナチュラル(有)	○	理事	松江市乃木福富町 水稲 野菜 加工
(有) 金山グローカルファーム	○		出雲市国富町 水稲 小麦
(有) 山本産業	○		邑智郡邑南町 養鶏
(農) 大久保養鶏農場	○		益田市左ヶ山町 養鶏 プロイラー
(株) 藤若農産	○		浜田市金城町 水稲 加工
(農) アグリード羽根	○		出雲市斐川町 水稲 小麦 加工
岩田農園(株)		理事	仁多郡奥出雲町 水稲
びおふあーむ		理事	邑智郡美郷町 野菜
シックス・プロデュース(有)		理事	邑智郡邑南町 酪農 加工
(株) 扇原茶園		○	浜田市田橋町 茶
(有) アグリみと		○	益田市美都町 水稲
丸大島根ファーム(株)		○	飯石郡飯南町 養鶏
(株) メイプル牧場		○	益田市黒周町 酪農 加工
(農) 明るい農村		○	松江市西尾町 水稲
奥出雲ファーム(有)		○	飯石郡飯南町 養鶏

事務局

会員
所在地MAP